

JANNET

メールマガジン通巻 100 号記念号

障害分野における

民間団体ネットワークの歩み



JANNET

(障害分野 NGO 連絡会)

2011 年 11 月

目次

挨拶	2
会長	2
前会長	3
現役員	4～8
協力者からのメッセージ.....	9
マヤ・トーマス氏（「障害、CBR とインクルーシブ開発」編集長）	9
ノーマン・カーン氏（開発における障害センター（CDD）理事長）	10
アルビナ・シャンカール氏（モビリティ・インディア所長）	11
熊田 芳江氏（社会福祉法人 こころん施設長）	12
大橋 正明氏（特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（JANIC）理事長）	13
JANNET の活動記録.....	14
研究会・研修会	14～18
JANNET 刊行物一覧	19

松井 亮輔・JANNET 会長

● JANNET メルマガ 100 号を記念して



この 11 月には、JANNET メールマガジン第 100 号が発行されることをこころからうれしく思います。障害分野 NGO 連絡会（JANNET）が 1993 年 12 月に設立されてから 2002 年までの 9 年間は、年 4 回のニュースレターが発行されていましたが、2003 年 10 月にメルマガになってからは毎月発行されることから、その情報量はニュースレター時代と比べ、格段に増えたばかりか、はるかに多くの方々に情報を提供できるようになったこと、またそのことを通してより多くの方々に JANNET の活動を知っていただける

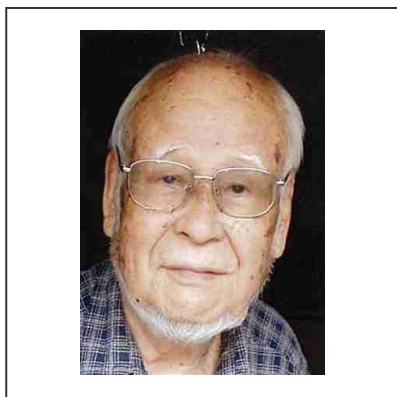
ようになったのではないのでしょうか。

ニュースレターからメルマガにかわった前年の 2002 年は、前年の 12 月に国連総会で設置が決議された、障害者権利条約について検討するための特別委員会が活動を開始した年です。同委員会で起草された障害者権利条約案が 2006 年 12 月の国連総会で採択され、2008 年 5 月には発効。現在では 100 カ国以上がその条約を批准しています。この権利条約に象徴されるように、従来支援の客体とされてきた障害のある人びとが、権利の主体となったこと、それに伴って国際協力においても協力の担い手とも位置づけられるようになったことは、画期的なことといえます。それをさらに推進するためにも、「国際協力が、障害者にとってインクルーシブかつアクセシブルであることを確保すること」（障害者権利条約第 32 条）がきわめて重要です。そのことをこのメルマガでも積極的に発信する必要があることを、この機会にあらためて確認しておきたいと思います。

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会／JANNET 会長

山口 薫・JANNET 初代会長

● お祝いの言葉



JANNET メルマガ 100 号記念号の刊行おめでとうございます。
何時も貴重な最新情報を掲載していただき大いに利用させていただいており、改めて感謝申し上げます。

1945 年に第 2 次大戦が終わってから、日本では奇跡的といってもいい 70 年近い平和が続いています。しかし、世界のあちこち
らでは未だに戦争や地域紛争が続いており、その底には、人種、宗
教、身分などの差別が根強く残っていることがあるように思います。

障害についての偏見、差別も例外ではありません。「障害者基本
法」のこれまでの経過では、障害の種別間での差別さえありました。

そんな中で、障害の種別を越えて、民間の関係組織が一つにまとまって活動を展開してきた JANNET
の活動はまことに素晴らしいことでもあります。私の後を引き継いで発展に貢献されている松井会長初め、
事務局、特にメルマガ編集の皆様は厚く感謝申し上げますと共に、今後も、200 号、300 号を目指して一
層のご活躍を祈っております。

JANNET 前会長

現役員

● 田中 徹二 日本点字図書館／JANNET 副会長



日本点字図書館では、1994 年からマレーシアを中心に点字書を作る技術指導をしてきました。当初は孤独な国際協力でしたが、JANNET に加入して、障害分野のさまざまな情報が入るようになり、視野が広がって感謝しています。

● 青松 利明 国際視覚障害者交流・協力ネットワーク(JIBEC)／

JANNET 広報・啓発委員会 副委員長



私は JANNET にちょうどこのメールマガジンの発行が始まった頃から関わるようになり、編集にも参加させていただいています。読者としても、編集担当としても毎回メルマガをととても楽しみにしています。今後も微力ながらよりよい内容をめざしてご協力させていただきたいと思います。

● 石橋 英恵 (社)日本作業療法士協会／JANNET 研修・研究委員会 委員



この度は、JANNET のメールマガジン 100 号の発行を心よりお祝い申し上げます。

今後も、国内外を網羅する障害者支援へのネットワーク組織としてのご活躍を祈念いたします。

現役員(つづき)

- 田口 順子 (社)日本理学療法士協会/JANNET 研修・研究委員会 委員長



メールマガジンの発行がついに 100 号、これまでにご尽力なされた中西由起子広報委員長をはじめ委員の方々に感謝と敬意を表します。紙面による情報提供も大切ですが、JANNET がいち早くメールによる広報活動を取り入れたことによって、JANNET のメインテーマ、CBR と障害、開発に対する活動の共通理解が深まったと感じています。英語版メールマガジンの発行も JANNET ならではのものです、これから益々の国際的展開が楽しみです。

- 伊藤 智典 (社)日本理学療法士協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



このたび、皆様のおかげでメールマガジン第 100 号の発刊を迎えることが出来ました。広報啓発委員会の 1 人として「万人の為の社会」づくりを目指し、より一層、邁進してまいります。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

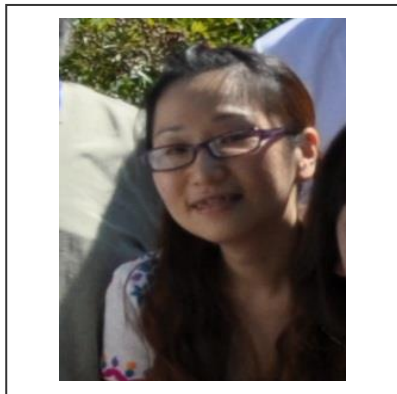
- 古西 勇 (社)日本理学療法士協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



JANNET の「NET」は「ネットワーク」、つまり節点と経路からなり、流れやつながりがあるものです。節点は会員の団体や個人であり、「心の準備」のある人々に最新の情報や機会を提供し、つながりを強めてもらうための手段の一つがメールマガジンです。これからも、多くの人々のつながりを強め、力を結集させる、活きたネットワークとして発展することを願います。

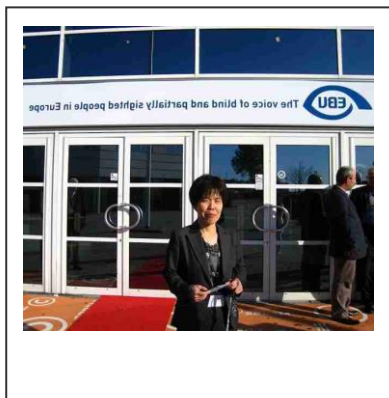
現役員(つづき)

- 清水 香子 (財)アジア保健研修財団 (AHI) / JANNET 研修・研究委員会 委員



JANNET とのかかわり、そしてそこでの様々な出会いが、私、そして私が所属する AHI が、地域づくりと障害のあり方に向き合う機会を作り、広げていることを実感しています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 田畑 美智子 (社福) 日本盲人会連合 / JANNET 財務・組織委員会 委員長



世界盲人連合に関わるようになり 8 年になります。同アジア太平洋地域協議会での活動、デンマーク政府開発援助によるプロジェクト、そしてジャネットの活動や皆さんの経験や知識から、本当に色々なことを学んでいます。こうした経験を活かして、今以上に世界中の視覚障害者と前に進んで行きたいと願っています。

- 中西 由起子 アジア・ディスアビリティ・インスティテート (ADI) /

JANNET 広報・啓発委員会 委員長



障害者基本法にもやっと国際協力が含まれました。JANNET の会員はアジアへとネットワークを広げ、その経験や技能を提供してきました。いよいよ我々の時代です。メルマガでもっと皆様の活動を語ってください。

現役員(つづき)

- 沼田 千好子 (社)日本発達障害福祉連盟/JANNET 研修・研究委員会 副委員長



100号をまとめれば数百のレポートとインフォメーションの集積となり、一つ一つを並べれば日本の障害分野 NGO の歩みを表してくれる。まさに、メルマガは宝の山！

- 福山 博 (社福)東京・ヘレンケラー協会/JANNET 財務・組織委員会 委員



機関誌をハードコピーから、電子化してメルマガにしようという議論から、100号ですか？「光陰矢のごとし」と同時に、「継続は力なり」という言葉が思い起こされます。広報委員の方々のますますのご精進を願います。

- 原田 潔 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



これまで100号積み重ねてきた、さまざまな人たちのつながりを思い起こします。MDGs やアジア太平洋障害者の十年なども節目を迎えつつある今、新たな取り組みを進めていきましょう！

現役員(つづき)

- 野際 紗綾子 難民を助ける会/JANNET 財務・組織委員会 副委員長



このたびは、JANNET メルマガ第 100 号の刊行を、大変嬉しく、心強く存じます。

障害の有無にかかわらず支え合える社会の実現に向けて、これからも、有益な情報やメッセージを拜読できることを楽しみにしております。

- 安川 雄二 きょうされん/JANNET 監事



東日本大震災やタイの大洪水など地球規模での天災が続いており、その度に障害のある人々が大きな困難を背負わされています。このような時期だからこそ、障害分野のNGO組織の連携を深めていくことが重要だと思います。

- 上野 悦子 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会/JANNET 事務局長



メールマガジン 100 号の達成は、役員の皆様のご尽力と会員の皆様の支えがあったからこそ。CBR が目指す、障害がインクルーシブな開発で欠かせないのは多分野間での連携です。JANNET でも多くの方々との連携のための場づくりをさらに進められるよう、皆様と歩んでまいります。

- マヤ・トーマス氏 ; Dr. Maya Thomas, Disability, *CBR and Inclusive Development*, Editor.



My congratulations to JANNET on the publication of the 100th issue of the E-Magazine! It has been a great privilege and honour for me to have been associated with JANNET members for more than a decade, on capacity building and information dissemination related to disability, community based rehabilitation and inclusive development. In a field where networking and exchange of resources are key to growth and development, the efforts of JANNET are highly laudable.

The 100th issue of the E-Magazine is a great milestone to have reached, and my good wishes are with JANNET as they continue their efforts in the future.

マヤ・トーマス博士、「障害、CBR とインクルーシブな開発」編集長、インド

第 100 号メールマガジン発行に際して、JANNET へ私の祝辞を述べさせていただきます！

障害、地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）とインクルーシブな開発に関連した、キャパシティ開発と情報の普及に関して、私が 10 年以上の間 JANNET のメンバーと関係していたことは、大きな特権と名誉でありました。情報資源のネットワークとやり取りが組織の成長と発達への鍵である分野において、JANNET の努力は、非常に賞賛に値します。メールマガジン第 100 号は、到達した大いなるマイルストーンです。そして、将来もその努力を惜しまないであろう JANNET に私は親愛感を持ち続けます。

JANNET とのかかわり

マヤ・トーマス博士、「障害、CBR とインクルーシブ開発」編集長、インド

CBR では世界的に著名なマヤさんは 2002 年と 2003 年に国際会議での講演のため来日しました。2003 年には JANNET の研修会にお招きし、CBR に関するシャープな課題提示と示唆に富んだ講演をしていただきました。また、2010 年にインドのバンガロールで CBR を学ぶ現地研修会では、研修受け入れ先のご推薦等企画に関してご協力をいただきました。

- ノーマン・カーン氏 ; A. H. M. Noman Khan,
Centre for Disability in Development (CDD), Executive Director.



On behalf of Centre for Disability in Development (CDD), I congratulate the Japan NGO Network on Disabilities (JANNET) for the hundredth anniversary of producing email magazines. The JANNET has been proactive to promote the rights of persons with disabilities since 1993. The JANNET continually supports to develop capacity of various organizations through exchanging information and other related cooperation.

CDD deeply appreciates for the tremendous efforts of JANNET to produce monthly email Magazine regularly. We expect that the JANNET will continue its' support promoting the rights of persons with disabilities through creating opportunities of sharing relevant information, concepts and research findings.

A. H. M. ノーマン・カーン、開発における障害センター（CDD）、理事長、ダッカ、バングラデシュ

開発における障害センター（CDD）を代表して、障害関連 NGO 連絡会（JANNET）がメールマガジンの第 100 号発行の記念日に際して私から祝詞を述べさせていただきます。JANNET は、障害のある人の権利を促進するために 1993 年より主導的な役割を果たしてきました。いろいろな組織が、情報と協力の絶え間ない交流を通じて、JANNET により支えられ、キャパシティを向上させています。毎月、定期的にメールマガジンを発行している JANNET の素晴らしい努力に対して、CDD は深く感謝します。我々は、適切な情報と概念、調査結果を共有する機会を生み出すことを通して障害のある人の権利を促進している、その支援を JANNET が続けていくことを期待します。

JANNET とのかかわり

A. H. M. ノーマン・カーン、開発における障害センター（CDD）理事長、ダッカ、バングラデシュ

CDD と JANNET の関わりは 2005 年にナズムル・バリさんの講演会、2007 年にはアビディン・カーンさん、そして 2008 年にはノーマン・カーさんご自身にご講演いただきました。2008 年には CDD の全面的なご協力によりバングラデシュのコミュニィ活動を学ぶ現地研修会を実施しました。2010 年にマグサイサイ賞を受賞されたことは大変うれしいニュースでした。

- アルビナ・シャンカール氏 ; Albina Shankar, Mobility India, Director.



Congratulations on the 100th Email-magazine!!!

Mobility India (MI) was honored to interact and share with the members of Japan NGO Network on Disabilities (JANNET) when they chose to visit a few NGO's in Bangalore implementing community based activities for people with disabilities (CBR).

MI's experience of implementing CBR programmes provides practical lessons learned and methods to the wider development and highlighted that CBR need to be implemented through the

combined efforts of people with disabilities themselves, their families, and their organisations as primary stakeholders with a multi sectoral approach. This approach seeks to ensure that all individuals are supported in their own communities, enjoy equal rights and opportunities as other members in the society.

We had a very good sharing and learning of experiences with Ms. Etsuko Ueno, Ms. Chiyoko Numata and their team members. It was nice to have these interactions and work collaboratively to bring our learning to strengthen the larger Asia-Pacific Network so that many organisations benefit in making a change for an inclusive society for people with disabilities. Congratulations on the 100th Email-magazine!!!

アルビナ・シャンカール、モビリティ・インディア所長、インド

第 100 号のメールマガジン、おめでとうございます!!! モビリティ・インディア (MI) は、障害関連 NGO 連絡会 (JANNET) のメンバーがバンガロールで障害のある人たちのための地域に根ざした CBR の活動を行っているいくつかの NGO を訪れることとした際に、光栄にも対話と情報の共有を行うことができました。MI は CBR プログラムを実施してきた経験から、実際に学んだことと手法を、より広く開発に提供します。そして、JANNET の皆さんに強調させてもらったのは、CBR は、障害のある人たち自身と彼らの家族、彼らの組織が、主要なステークホルダーとして、力を合わせることを通して多領域アプローチにより実施される必要があるということです。このアプローチは、全ての個人が彼ら自身のコミュニティで支えられて、社会の他のメンバーと対等の権利と機会を享受することを確実にしようとするものです。バンガロールの私たちを訪れてくれた上野さんと沼田さん、他の同行者の皆さんに接して、大変よい情報交換と経験の共有ができました。これらの対話を持てたことは嬉しいことでした。そして、障害のある人たちのためのインクルーシブな社会への変化において多くの組織が恩恵を受けられるように、アジア太平洋におけるより大きなネットワークを強化するために私たちが学んだことを持ち寄り、協力して働くということは素晴らしいことです。第 100 号のメールマガジン発行、おめでとうございます!!!

JANNET とのかかわり（前ページ）

アルビナ・シャンカール、モビリティ・インディア所長、インド

マヤ・トーマスさんのご紹介で、2010年にインド、バンガロールにおける JANNET 研修会でご協力いただきました。同団体が貧困削減にも取り組んでいるお話を伺い、都市スラムでの CBR プログラム見学をアレンジして下さいました。2012年にインドで開催される、第一回グローバル CBR 会議開催では事務局の重責を担われます。

●熊田 芳江氏 社会福祉法人 こころん施設長



「住み慣れた地域で働き暮らしたい」という当たり前のことが、障害や病気、地域格差や貧困などによって保障されない人々への支援を続けてこられた JANNET の活動に大変頭の下がる思いです。

今年の3月私たちが住む東北地方は、1000年に一度という地震と津波によって多くの人々の命が奪われました。そのうえに福島は原子力発電所の爆発による甚大な被害が加わり、人類がこれまで経験したことのない災害に見舞われました。

「こころん」ではお見舞いのメッセージや義援金など全国のたくさんの方から大きな力を頂き、心から感謝いたします。

放射能による被害はまったく実態がありません。どこまで危険なのか、情報だけが右往左往しています。しかし怖いのは風評被害です。何気ない言葉が当事者にとっては大きな傷となり、恐怖となって復興を妨げます。

私たちは体験しました。差別や偏見はどんなところにも存在すること、そしていつその立場が逆転するのかわからないこと、暖かい愛ある言葉や行動が大きな力になること。

JANNET の活動はこうした社会的偏見によって作られた障害や地域格差を、その地域に住む人々の暮らしに合った社会を取り戻すための活動であり、皆さんの活動は支援を受けられた人々の大きな力となりすばらしい活動に発展しています。

皆様の安全を願い、志の高い皆様と出会えたことに感謝しています。

JANNET とのかかわり

熊田芳江氏 社会福祉法人 こころん施設長

福島県泉崎村にあるこころんとは就労関係の国際研修で受け入れていただいたことが縁で、2009年には JANNET 研修会で訪問し、地域づくりと障害者支援を統合した活動を学ぶ機会になりました。CBR ガイドラインに日本の好事例として紹介されています。2011年3月11日の東北大震災と福島原子力発電所の事故の影響について JANNET 総会でもお話いただきました。

●大橋 正明氏 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 理事長



JANNET のメールマガジン 100 号の発行、心よりお祝い申し上げます。

日本の国際協力 NGO は大よそ五百団体ありますが、障害分野に関わる NGO の数は多くありません。こうした状況の中で、JANNET は 1993 年に発足以来、常に質の高い活動を行い、また障害分野を専門としない NGO とも積極的に交わり、大きな貢献をされてきました。改めて感謝申し上げます。

貴団体の高い質は、CBR や CBID の考え方を先進的に紹介したり、アジアの関係団体と密接な関係を保ったり、権利ベースの考え方を取り入れる、といったことに表れていると考えています。

間もなく創設 20 周年を迎える JANNET の活動が一層充実し、障害分野及び他の国際協力の諸分野にもよい刺激と導きを与えてくださることを、これまで以上に期待しています。同じネットワーク団体として、手を携えて進んでいきましょう！

JANNET とのかかわり

大橋正明氏 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 理事長

JANIC はあらゆる専門領域での国際協力を携わる NGO を支援する NGO です。JANNET は 2008 年から正会員になったことで、障害以外の様々な国際交流や国際協力活動で活動する団体との交流の機会が増えました。2011 年 10 月には、JANIC のアカウントビリティ・セルフチェックを受けて承認されました。様々な支援をしてくれるありがたい存在です。

● 研究会・研修会

開催年月日	テーマ	講師	講師の所属等
研修会			
2001年 1月28日	CBR キャパシティ・ビルディングセミナー ー地域参加型リハビリテーションの理解と実践ー	渡邊雅行	日本 CBR ネットワーク
2002年 1月20日	貧困と参加「力の剥奪(deprivation)から 「非排除型 (inclusive) 開発へ	穂坂光彦	日本福祉大学経営学部
2003年 8月27日	CBR (地域に根ざしたリハビリテーション) ー現 在の傾向および将来への試みに関する 議論	マヤ・トマス	障害政策アドバイザー
2005年 3月6日	精神障害と国際協力	蟻塚亮二	精神科医
6月26日	ネパールの農村に暮らして	垣見一雅 (OKバジ)	
2008年 3月1-5	「開発における障害」バンガラデッシュ現地研 修会	ノーマン・カーン他	CDD(開発における障害センター)
2009年 3月10-11	福島県泉崎村における地域おこしと障 害者支援	熊田芳江	NPO (現在社福) こころん 施設長
2010年 1月16-23	インド、バンガロールにおける CBR 現 地研修会	マヤ・トマス ラマ・チャンドラー	Mobility India, BasicNeeds

研究会			
1994年 6月20日	カンボジアの現状と協力活動 ① 農村の現状と課題 ② 車いす関連活動について ③ 義肢に関する NGO の動き	リン・キム、ホン・アン 小松博史 澤村誠志	アジア保健研修所 難民を助ける会 国際義肢装具連盟 (ISPO)
1995年 1月17日	インドネシアでの活動 ① CBR 研修事業 ② CBR 創業者ワークショップ への協力 ③ 日本理学療法士協会の活動 ④ ソロ・リハビリテーションセンターへの協力を中心 に	星野侃司 津山直一 久野研二 松井亮輔	こども未来財団 日本障害者リハビリテーション協会 日本理学療法士協会 日本障害者雇用促進協会
6月8日	CBR について ① CBR 研究ー歴史と今日的課題 ② 概念と実践	小林明子 中西由起子	国際 CBR 研究会 アジア・ディアルティ・インスティテュート
12月5日	職業分野における CBR		

	① インドネシアの体験から ② フィリピン 宿務島における CBR	丹羽 勇 中西由起子	元 ILO アジア・ディズアビリティ・インスティテート
1996年 5月27日	NPO 法案の概要・今後の動き 民間団体にとっての NPO 法案の役割	松原 明 中西正司	市民活動を支える制度を作る会 ヒューマンケア協会
12月16日	「障害分野における研修活動の評価を考える」加盟団体よりの報告 ① アジア・ディズアビリティ・インスティテート ② 日本キリスト教奉仕団「アガペ」身体障害者作業センター ③ 日本理学療法士協会 ④ 日本発達障害福祉連盟	池住義憲 中西由起子 飯島蘭子 小林義文 沼田千好子	アジア保健研修所
1997年 6月3日	「障害分野における研修活動の『評価』を考える Part II」ーラオスでの住民参加型農村開発における『評価』の試み	磯田厚子	日本国際ボランティアセンター
12月11日	報告： ① JICA の国民参加型協力推進調査「障害者の国際協力への参加」 ② 全日本ろうあ連盟の国際協力活動 ③ 日本点字図書館の国際協力活動 ④ 国立リハビリセンターにおける国際協力活動	岩波和俊 大槻芳子 田中徹二 植村英晴	JICA 東京国際研修センター 全日本ろうあ連盟 日本点字図書館 国立リハビリセンター国際協力室
1998年 6月15日	「国際障害分類 (ICIDH) 東京改定会議について」	佐藤久夫	日本社会事業大学
11月17日	設立 5 周年記念セミナー 「21 世紀における CBR と国際協力」	デビッド・ワナー	プロヒモ (米国)
1999年 6月7日	今後の障害分野における協力事業の展開ー助成のあり方をめぐって	松井亮輔	JANNET 会長 (北星学園大学)
2000年 1月17日	「よりよい NPO 活動をめざして」 「NPO 法成立後の NPO 活動」 「JICA の NGO 支援に関する 2 つの新しい援助計画 (開発福祉支援事業、開発パートナー事業)」	松井亮輔 松原 明 山内康弘	JANNET 会長 市民活動を支える制度を作る会 JICA 国内事業部国内連携課
6月5日	IT 革命は社会をどう変えるかー国際協力活動への影響	河村 宏	日本障害者リハビリテーション協会情報センター
2001年	開発と評価	源 由理子	アース仏教国際協力ネットワーク

1月9日			
6月25日	ICIDH 改訂について	上田 敏	WHO 国際障害分類日本協力センター、日本障害者リハビリテーション協会
2002年 5月14日	東チモール障害者の現状を聞く会	長田こずえ	国連 ESCWA(西アジア経済社会委員会)
6月2日	CBR における主体的参加型村落評価法 (PRA) の実践	大澤諭樹彦	秋田大学医療技術短期大学理学療法科
2003年 2月15・16	ワークショップ「CBR の国際的動向」	マルコム・ピート ジーン・エトモント	カタクインズ大学
3月8日	JANNET 幹部合宿 「設立からこれまでの振り返りと今後の課題をどう発展させるか。」	池住義憲	
6月8日	「戦争と障害」－会員団体によるアフガニスタン、カンボジアにおける地雷除去や地雷撲滅キャンペーンについて	紺野誠二 加藤美千代 北川泰弘	難民を助ける会 JCBL フロンティアの会
10月25日	プロヒモ CBR 見学報告会	田口順子	日本理学療法士協会
2004年 1月18日	世界の活動報告 ① コソボからの報告 ② フィリピンからの報告 ③ エジプトからの報告 ④ 飛騨高山市のバリアフリー観光の取り組み	高松美穂 吉田美穂 沼田千好子 上野悦子	PT 協会 OT 協会 日本発達障害福祉連盟 日本障害者リハビリテーション協会
6月6日	国際障害 NGO の目指すこと －障害者権利条約制定に向けて－	中西由起子 小椋武男 松友 了 指田忠司 松井亮輔	アジア・ディアビリティ・インスティテュート 全日本ろうあ連盟 全日本手をつなぐ育成会 日本盲人会連合 日本障害者リハビリテーション協会
6月6日 (上記研究会直後に開催)	ネパールにおける障害者エンパワメントの現状と課題	渡邊雅行および ネパールの関係者	日本 CBR ネットワーク
2005年 1月22日	アフリカのコミュニティと障害者 ① アフリカへの国際協力の現状 ② 村落開発普及員としての体験報告 in アフリカ ③ 作業療法士としての体験報告 in	鍋屋史朗 星野明彦 河野 眞	JICA 東京国際センター JICA 無償資金協力部 国際医療福祉大学

	マラウイ		
11月5日	「開発への障害のインクルージョン」 ① 障害と貧困－CBR のダ付ミックス ② 開発への障害のインクルージョン、バングラデシュ ③ 開発への障害のインクルージョン、フィリピン	長田こずえ ナズムル・ハリ ベンジヤミン・ゴビーン	国連 ESCAP 社会問題担当 CDD(開発における障害センター) ハンデイクャップ・インターナショナル
2006年 1月21日	「CBR の課題への取り組み」 ① カダにおける CBR 人材養成コース ② CBR の持続性を考える－インドネシア、ソコの実例	高松美穂 大澤諭樹彦	郡山健康科学専門学校 秋田大学医学部保健学科
8月26日	アジアの視覚障害者との交流	田中徹二 アジアの視覚障害者	日本点字図書館
9月3日	開発と開発へのインクルージョン活動 －南アジアを事例に－	下澤嶽 沼田千好子 上野悦子	国際協力 NGO センター 日本発達障害福祉連盟 日本障害者リハビリテーション協会
2007年 7月19日	ウガンダ国内および世界の地雷問題の現状	マカレット・オク	ULSA(ウガンダ地雷生存者協会)
10月9日	開発における障害 －バングラデシュを深める－	アビティン・カン	CDD(開発における障害センター)
11月19日	障害の開発へのメインストリーミングをテーマとする意見交換会	長田こずえ	国連開発政策課シニアマネージメント担当
2008年 6月16日 8月4日 9月23日 12月22日 2007年 2月2日	JANNET 翻訳『CBR』に基づく「CBR と開発」の勉強会 I 第1回 11章「政策・戦略。サービス事業」 第2回 1-4章 第3回 8章「教育」 第4回 10章「研究」 第5回 7章「評価」	山崎真由美 田口順子 古西 勇 河野 眞 沼田千好子	アジア保健研修所 日本理学療法士協会 新潟医療福祉大学 国際医療福祉大学 日本発達障害福祉連盟
7月11日 10月11日	「CBR と開発の勉強会」II 第1回 バングラデシュにおける開発の経験から障害を考える 第2回 ウズベキスタンでの事例から CBR の課題を学ぶ	白幡利雄 河野 眞	シヤプラニール＝市民による海外協力の会 国際医療福祉大学

2010年 8月27日	「開発途上国の被災者のために私たちが できることー災害による障害者に対 する CBR を通した支援」	阪本真由美 ナツ・カリニ 野際紗綾子	人と防災未来セン 理学療法士、インドネ シア 難民を助ける会
2011年 8月1日	CBID、CBR がト ラインの概要	上野悦子	日本障害者リハ ビテーション協会
9月	2010年 CBR がト ライン会議報告会	平本実 野際紗綾子	ワ ールド・ビ ジョン・ジ ャパン 難民を助ける会
10月29日	日本の地域福祉と CBID/CBRー街ぐる みの包括的福祉に向けてー	戸枝陽基 ファシリテーター： 石本馨 清水香子	NPO ふわり・社福むそう 日本福祉大学 アジア保健研修所
共催セミナー			
2001年 10月12日	CBR 講演会「障害をもつ人の地域参加 と自立」 共催：アジア保健研修所、名古屋大学、 日本 CBR ネットワーク	マ ットモ・ス キルマン 石本馨 渡邊雅行	CBR 開発研修センター、インドネ シア 日本福祉大学 中部学院大学
2010年 2月15日	南インドー ア ント ラ プ ラ テ ッ シ 州 に お け る 障 害 者 の 貧 困 削 減 事 業 ： 障 害 者 の 自 助 グ ル プ と そ の 連 合 体 の 構 築 共 催 ： 世 界 銀 行 情 報 セ ン タ ー (PIC 東京)	高嶺豊 ラル・ダ ス チャ パ ル ・ カ ス タ ビ ス 他	琉球大学 アール エム 単科 大学 WHO 障 害と リハ ビ テ ィ ョ ン 部 門
11月1日	視覚障害分野の開発プロジェクトー デンマーク 盲人協会の経験よりー 共催：世界銀行情報センター (PIC 東京)	ミ ケ ー ル ・ バ ラ ー ズ ・ マ ー セ ン 他 コ ー テ ィ ネ ー タ ー ： 田 畑 美 智 子	デン マ ー ク 盲 人 協 会 プ ロ ジ ェ ク ト コ ー デ ィ ネ ー タ ー 日本盲人会連合

● JANNET 刊行物一覧

	書名	刊行年	販売価格
1.	JANNET 設立 5 周年記念セミナー －21 世紀における CBR と国際協力－ (1996 年) 報告書	1998	
2.	JANNET 研修会： CBR キャパシティ・ビルディングセミナー報告書	2001	
3.	研修会報告書「福祉と開発の接点」報告書	2002	
4.	研修会「CBR の最近の動向について」報告書	2004	1,000 円
5.	ワークショップ「CBR の国際的動向」報告書	2006	1,000 円
6.	研修会「ネパールの農村に暮らして」報告書	2005	500 円
7.	研究会「開発への障害のインクルージョン」報告書	2005	1,000 円
8.	JANNET 十年の歩み	2006	
9.	研修会「開発と障害－南アジアの NGO から学ぶ」報告書 (日本障害者リハビリテーション協会共催)	2007	
10.	『CBR 地域に根ざしたリハビリテーション：障害のある人の完全参加を目指すシステムづくり』 マルコム・ピート著 “CBR “の翻訳 明石書店	2008	2,400 円
11.	福島県泉崎村「こころん」現地研修会報告書	2009	500 円
12.	研究会「開発途上国の被災者のために私たちができること －災害による障害者に対する CBR を通じた支援－報告書	2010	1,000 円

● 編集後記

メールマガジン 100 号記念号をお届けします。多数のメルマガが発行されており、私もいくつか受け取っています。しかし、記念号を読むのは初めてです。手ごろに発行できる反面、紙の機関誌に比べ、軽く見られる傾向があるからなのかもしれません。

日ごろから情報障害者と嘆いている私も、メールでは添付の PDF が読めないなどいくつかの障害はありますが、ほとんど違和感なく皆さんと意見交換しています。その点でメルマガの存在は、視覚障害者にとっては大きな情報源です。皆様にとってもしかりだと思います。

今後もメルマガの発行は、ジャネットがある限り続いています。それを支えてくださるのは会員皆様です。できるだけ多くの情報を、今後もこのメルマガにお寄せくださいますようお願いいたします。

最後に 100 号記念号を発行するにあたり、特に古西運営委員、それに事務局の上野さん、佐々木さんにたいへんお世話になったことに感謝申し上げます。

(田中 徹二)

JANNET
メールマガジン通巻 100 号記念号
～ 障害分野における民間団体ネットワークの歩み～

2011 年 11 月

企画・製作: JANNET(障害分野 NGO 連絡会) / 広報啓発委員会

お問合せ: JANNET 事務局

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1

TEL: 03-5292-7628

FAX: 03-5292-7630

URL: <http://www.normanet.ne.jp/~jannet/>